

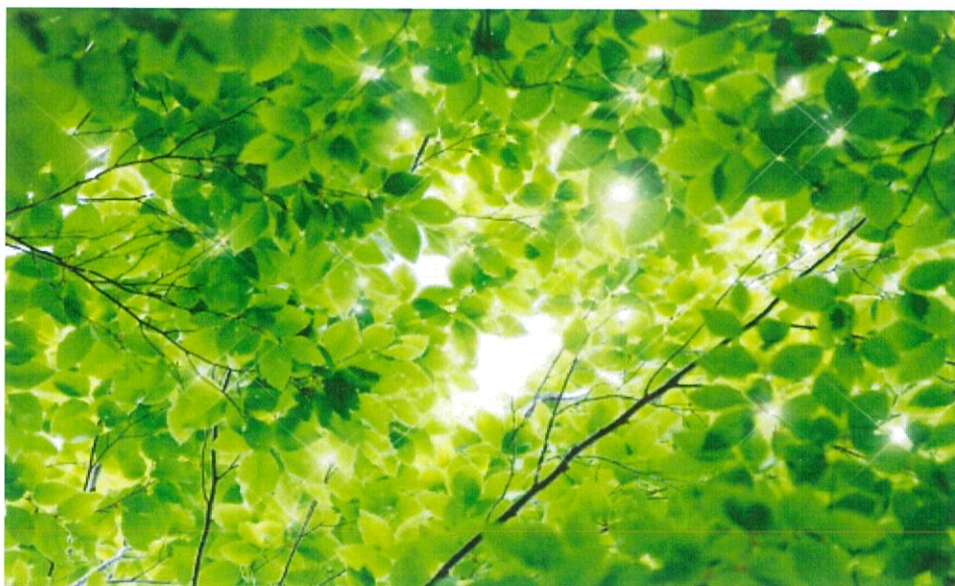


●段ボールケース 企画／製造／販売

成田紙業株式会社

2023 年度 環境経営レポート

(対象期間: 2023 年1月1日 ～ 2023 年12月31日)



発行日: 2024年1月26日

□ごあいさつ

成田紙業株式会社は、段ボールケースの設計・製造・販売事業を通じて生態系・環境に配慮した企業活動を基本とし、環境保全活動と循環型社会の形成に取り組んでまいります。

成田紙業株式会社

代表取締役 成田 浩司

環境経営方針

成田紙業は段ボールケースの企画及び製造販売を行う上で、事業活動が環境に与える影響を的確に捉え、技術的・経済的に可能な範囲で環境目標を定め、自主的・積極的に環境保全活動の継続的な改善及び環境汚染の予防を図る。エコ活動を通じ地球環境に適した会社・人材を創造します。

1. 環境関連法規制及びその他の当社が同意した要求事項の遵守を行い当社一丸となって環境保全に努めます。
2. 地球温暖化防止のため、電力及び自動車燃料の使用による二酸化炭素排出の削減に取り組めます。
3. 原材料の有効利用及び分別の徹底により廃棄物の削減に努めます。
4. 節水活動により水使用量の削減に取り組めます。
5. 化学物質の適正管理に努めます。
6. 環境を配慮した製品やサービスの推進に努めます。
7. 清掃活動をもって地域社会の環境保全に貢献します。

制定日：2016年8月29日

改定日：2023年1月10日

代表取締役 成田浩司

□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
成田紙業株式会社
代表取締役社長 成田 浩司
- (2) 所在地
本社・工場 大阪府南河内郡千早赤阪村大字水分955-1
四国工場 徳島県三好郡東みよし町足代3697-3
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 土風 貴司 連絡先 TEL : 0721-72-1616
担当者 松田 有亮 FAX : 0721-72-1543
- (4) 事業内容
段ボールケースの企画及び製造販売、包装資材全般の取扱い、グラビア印刷
主要製品: 段ボール全般、トムソンケース、組立式緩衝材、貼り加工全般、ディスプレイ
- (5) 事業の規模

製品出荷額	12 億円	(2023年度)
主要製品生産量	859 万㎡	

	本社	合計
従業員	35	35
延べ床面積	4950	4950

- (6) 事業年度 1月1日～12月31日

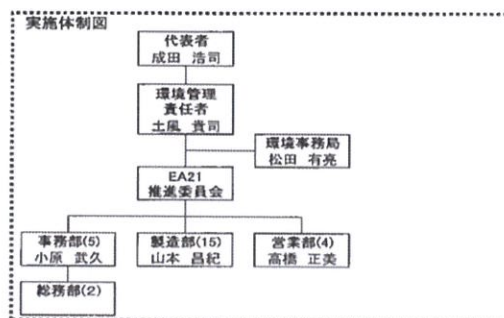
□認証・登録の対象組織・活動

登録事業者名： 成田紙業株式会社
対象事業所： 本社・工場

対象外： なし（四国工場は現在貸倉庫として他社に貸しており
自社による環境負荷の発生はない）

活動： 段ボールケースの企画及び製造販売

□実施体制図



□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	258,363	188,777	185,362
廃棄物排出量	kg	391,840	362,880	326,165
一般廃棄物排出量	kg	4,680	4,680	4,545
産業廃棄物排出量	kg	387,160	358,200	321,620
混合廃棄物	kg	2,900	3,100	2,400
汚泥	kg	5,850	5,130	3,780
段ボール(有価)	kg	378,410	349,970	315,440
総排水量	m ³	0	0	0

※電力の二酸化炭素排出量換算値

0.351 kg-CO₂/kWh (関西電力調整後排出係数)

※2021年は0.522kg-CO₂/kWhの排出係数を使用

□環境目標及びその実績

年 度 項 目		基準値	2023年		2024年	2025年
		(基準値)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	126,472	125,208	123,341	123,943	122,678
	基準年比	2022年	-	-	-	-
	kg-CO ₂ /m ²	0.01363	0.01350	0.01435	0.01336	0.01322
	基準年比	2022年	99%	94%	98%	97%
自動車燃料（ガソリン）による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	20,561	20,355	19,341	20,149	19,944
	基準年比	2022年	-	-	-	-
	kg-CO ₂ /m ²	0.00222	0.00219	0.00225	0.00217	0.00215
	基準年比	2022年	99%	98%	98%	97%
自動車燃料（軽油）による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	41,662	41,245	42,591	40,828	40,412
	基準年比	2022年	-	-	-	-
	kg-CO ₂ /m ²	0.00449	0.00445	0.00495	0.00440	0.00436
	基準年比	2022年	99%	90%	98%	97%
合計	kg-CO ₂	188,694	186,808	185,274	184,921	183,034
	kg-CO ₂ /m ²	0.02034	0.02014	0.02155	0.01993	0.01973
一般廃棄物の削減	kg	4,680	4,633	4,545	4,586	4,540
	基準年比	2022年	99%	102%	98%	97%
産業廃棄物の削減	kg	3,100	3,038	2,400	2,945	2,883
	基準年比	2022年	98%	127%	95%	93%
水道水の削減	m ³	743	728	628	706	691
	基準年比	2022年	98%	116%	95%	93%
化学物質の適正管理	点数	36	36	36	36	36
	基準年比	2022年	100%	100%	100%	100%
製品・サービスへの環境配慮 (段ボールの優位性をPR)	件	67	70	77	74	77
		2022年	増加率	109%	110%	115%

※生産総平米

基準年

2022年

9,277,333

m²

2023年

8,598,118

m²

※2023年実績欄の下段(%)は目標達成率である

※電力による二酸化炭素削減・ガソリン及び軽油による二酸化炭素削減については生産原単位評価

※目標達成率の計算式=2023年目標値/2023年実績値×100% (期間:2023年1月~12月)

※産業廃棄物の削減では、全産業廃棄物から汚泥(焼却)、廃ダンボール(再資源化)を除いた産業廃棄物が対象である。

※化学物質の適正管理については毎月①濃度管理②購入kg数の把握③標準色を優先出来たら1点、できなければ0点のポイント制(満点:各月3点、年間36点)

※CO₂排出量にはLPGによる排出量は含まれていません。

□環境経営計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

数値目標：○達成 ×未達成

活動：○よくできた △さらに取組が必要 ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
電力による二酸化炭素削減		
生産原単位目標	×	通年で実績値達成。原単位目標未達成。年間を通して前年度より使用量が減っており、しっかり節電できているので来期に向けてこの状態を続けて目標達成に向けて取り組む。原単位での目標が未達成になっているので来期は実績、原単位ともに目標達成できるように節電に努める。まずは本業の出荷平米を増やすことが原単位目標達成の必須条件なので営業活動の強化を徹底する。
・不要空調の切電	△	
・不要照明の消灯	△	
・コンプレッサ、未使用機械の電源OFF	○	
自動車燃料（ガソリン）による二酸化炭素削減		
生産原単位目標	×	今期累計目標未達成。実績値は達成できているが原単位での目標未達成。実績値達成に関しては、各営業が意識してガソリン使用量の削減に取り組んだ成果であると評価できる。営業ルートの検証。別の営業マンの用事を近くに予定がある者に依頼し、できるだけ効率よくスケジュールリングできるようにしたことが功を奏した。来期も各営業マンのスケジュール調整を行い無駄な外出、運転を控え引き続きガソリン使用の削減に努めること。各営業が営業効率を考え各自の行動予定を共有し全体的な動きの無駄をなくすことを基本に出荷平米を増やすため営業活動の強化を徹底する。
・アイドリングストップ	○	
・効率のよい営業ルートの移動	○	
自動車燃料（軽油）による二酸化炭素削減		
生産原単位目標	×	年間通じて目標未達成。低燃費走行や無積載での運転を控えるなど日々の積み重ねが必要。来期は通年で目標達成できるように各自が徹底的に取り組むこと。原単位目標達成は本業の出荷平米を増やすことが必須条件なので営業活動の強化を徹底する。
・フォークリフトの燃費走行	△	
・無積載でのフォークリフト使用を減らす	△	
一般廃棄物の削減		
数値目標	○	年間を通して目標達成。上半期は未達成に終わったが下半期は徐々に一般廃棄物の排出量が減ってきた。ゴミの分別や家庭用ゴミを持ち込まないなど社員一人一人の意識改革が出来てきた証拠。引き続き来年度も目標達成に向け取り組むこと。
・ゴミの分別徹底による減量化	△	
・使い捨て製品（紙コップ・使い捨て容器入り弁当）の使用や購入を抑制	△	
産業廃棄物の削減		
数値目標	○	年間を通して目標達成。来年度も産廃の削減に努める。本年度も徹底したが産廃を捨てる際に極力体積を減らすようにする。袋に詰めたまま捨てるのではなく中身を出して捨てること。
・リサイクル業者の開拓	×	
・ゴミ分別による産廃への一廃混入の抑制	○	
・袋に入ったゴミは袋から出し積荷が高くないようにする	○	
水道水の削減		
数値目標	○	年間を通して目標達成。毎月少しずつでも使用量を減らすことができたことは非常に評価できる。常に社員一人一人が節水を心がけた結果だと言える。来年度も節水に対する意識を切らず水道水の使用量削減に努めること。
・インク洗浄の際の水使用量の削減	○	
・水道使用時の水の出しすぎに注意	○	
・バルブ調整による水量・水圧の調整	○	
化学物質の適正管理		
数値目標	○	年間を通して目標達成。今後も適正管理に努めること。
・濃度管理	○	
・購入kg数の把握	○	
・標準色を優先	○	
製品・サービスへの環境配慮		
数値目標	○	年間を通して連続達成。来年度も引き続き段ボールの優位性をアピールすること。新規開拓や既存顧客のリピート注文を増やすなど顧客の満足度を高める営業につなげること。
・省エネ設計	○	
・再生資源の利用	○	
・段ボールの優位性をPR	○	
社会貢献		
・会社周辺の清掃	○	年間を通して会社内及び会社周辺の清掃活動を行ったことできれいな環境を保つことができていた。特に散った桜の花びら、夏場の草刈りや冬場の落ち葉を季節ごとに毎日率先して掃除できたことで敷地内を常に綺麗にできていた。豪雨の後は会社入り口の橋の周辺に土砂が上流から流れ出てくる。それらも適時に清掃し安全を確保できていた。

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（段ボール、汚泥、金属くず、廃プラ、廃ガラス、廃油
騒音規制法・振動規制法	印刷機、トムソン、集塵機
水質汚濁防止法	油類の保管、有害物質の取扱い
労働安全衛生法	SDSが義務化された896物質（2024. 4. 1現在）
NOx・PM法	トラック、バン
消防法（危険物）	シンナーの保管、危険物の保管
フロン排出抑制法	業務用空調機
家電リサイクル法	エアコン、テレビ、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機・衣類乾燥機
小型家電リサイクル法	小型電子機器28品目
自動車リサイクル法	使用済み自動車の適正な処理
PRTR法	第1種指定化学物質（515物質）モリブデン
顧客要求事項	㈱シマノ様の要求事項

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
関係当局よりの違反の指摘は、過去3年間ありません。

□代表者による全体の評価と見直し・指示

電力による二酸化炭素の削減、ガソリン・軽油による二酸化炭素削減については通年で目標未達成に終わってしまった。不在時の室内の電気エアコンを切るなど常に注意すれば改善できる。ガソリン・軽油の使用量については各営業が営業効率を考え各自の行動予定を共有し全体的な動きの無駄をなくす。社内では現場のフォークリフト使用は無積載で移動のみに使うことがないよう効率よく仕事をするためフォークリフトの運用を考える。トラックドライバーに関しても今一度燃費走行を心がけてもらう。特に電力・ガソリンについては実績値は達成できており通年で前年度比で使用量の削減ができています。ここは評価できるが原単位での目標達成が出来ていないのでやはり出荷平米が前年度を大きく下回ったことが要因である。来期は本業を強化し出荷平米を増やしていく事が急務。一般廃棄物の削減、水道水の削減、産業廃棄物の削減については通年で目標達成できたことは評価できる。環境活動に全員で取り組むとことで日々の業務にも相乗効果を得ることができると考える。来年度はすべての項目で目標達成できるよう全社員一丸となって環境活動に取り組めます。

日付：2024年1月25日

□環境経営方針、環境経営目標・計画、実施体制の変更の有無

環境経営方針 ☐ 変更有 ☒ 変更なし

詳細：

環境経営目標・計画 ☐ 変更有 ☒ 変更なし

詳細：

実施体制 ☐ 変更有 ☒ 変更なし

詳細：